

平成 25 年度施策マネジメントシート1(平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	市民環境生活課
			施策統括課長	安食 恵治
	施策名	12 環境衛生の充実	関係課	下水道課,自治振興課,事業管理課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	A)市民 B)廃棄物(ごみ) C)廃棄物(し尿)	A	人口	人	実績	見込	実績	42,428	41,917	41,159	40,548		
見込										41,159	40,548	40,440	39,949
B		ごみの排出量	t	実績	見込	実績	9,438	9,033	10,243	11,359(見込)			
							見込			9,420	9,326	9,233	9,141
C		し尿処理量	t	実績	見込	実績	8,556	7,672	7,020	6,394(見込)			
							見込			7,723	7,337	6,970	6,622
目的		②意図(どのような状態にするのか)		成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		A)ごみの減量と再資源化を行う。 B)適正に処理する。	A	市民1人あたりのごみ排出量	g/日	実績	目標	実績	589	571	657	742(見込)	
目標											590	580	570
B			ごみの資源化率	%	実績	目標	実績	53.1	53.9	55.1	52.6(見込)		
								目標			54.0	54.0	55.0
C		不法投棄の通報件数	件	実績	目標	実績	33	53	32	28			
	目標								29	28	27	25	
D				実績	目標	実績							
							目標						
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)			A-1)市民1人当たりのごみ排出量が減れば、ゴミの減量化につながると考えた。 A-2)ごみの再資源化は、再資源化量、再資源化率で判断できると考えた。 B)不法投棄は、ごみが適正に処理されていない状態であると考えた。										
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)			A)一部事務組合と市民環境生活課(北部の古紙・古着)で把握 B)市民環境生活課で把握(実績値については、島根県環境生活部廃棄物対策課が公表する「一般廃棄物処理の現況」を参照)										
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)			A)既に住民意識は高く水準であるが、今後も3Rを推進していき排出量抑制を図ることにより、毎年度10g減少させていくことを目標とする。 B)成行値は同程度での推移を予測する。目標値は古紙や古着回収を拡充させることなどにより、増加させることを目指す。 C)今後ごみ分別などの規制が強化される見込みであり、成行値は増加していくことを予測する。目標値は監視の強化などに引き続き取り組むことで、毎年減少させることを目指す。										

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① ゴみの減量と適正処理の推進	市民	ゴミを減量する。	市民1人あたり のごみ排出量	g/日	実績	589	571	657	742(見込)		
② ゴみのリサイクルの推進	市民	ゴミのリサイクルを進める。	資源化量・資源化率	t %	実績	5,012 53.1	4,866 53.9	5,649 55.1	5,671(見込) 52.6(見込)		
③ し尿の適正処理	し尿	適正に処理する。	処理能力	kl/日	実績	90	90	90	90		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	●3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進やマイバック運動等により、ごみ排出量の削減やごみの分別に努める。	●3Rを啓発・推進し、古紙・古着回収などによる再資源化を図る。 ●将来を見越した適切な整備計画に基づいて廃棄物処理施設・し尿汚泥処理施設の整備を行い、施設の効率的利用を推進する。 ●ごみの収集日程等の見直しを行い、適切な回収に努める。
② 状況変化	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して) ○人口減少、高齢化によりごみ排出量も減少することが予測される一方で、空き家の解体等に伴う廃棄物の持込処理が増えている。○県内ではレジ袋の有料化(無料配布中止)の取り組みが進められている。○下水道整備が進み、普及率が向上してきたことに伴い、し尿処理量は減少している。○現在吉田町・掛合町で発生した可燃ごみの処理委託を行っている出雲エネルギーセンターについて、平成33年度をもって処理委託を解消することとなった。	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○自治会等から、ごみ集積施設設置の補助制度や古着の回収頻度を増やすことを求める意見があった。 ○消費者問題研究会及び市議会からマイバック運動を推進するよう求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 □ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 □ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 □ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。 	背景・要因 ○市民1人あたりのごみ排出量(23年度実績)は、県平均(944g)に比べかなり少ない(美郷町540g、邑南町559g、吉賀町638gに次ぎ県内4位)。 ○ごみ資源化率(23年度実績)は、県平均(26.3%)の中で、雲南市は群を抜いている(1位雲南市55.1%、2位美郷町42.4%、3位邑南町42.2%)。これはRDF方式で固形燃料として再資源化していることが大きく起因している。

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《12 環境衛生の充実》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ごみ排出等に関する各実績は現時点で確定しないことから、独自推計した見込値と比較することを前提とする(以下同じ)。 ○ごみの排出量は18年度から22年度にかけ、年当たり2.6~4.7%の減少傾向にあったが、23年度から増加傾向に転じている。要因として23年度評価から集計方法の一部を見直したことに加え、火災廃材や空き家解体に伴う廃棄物の持ち込み量が増加したことにある。○ごみの資源化率は、24年度(見込値)では若干の低下はあるもののほぼ同水準で推移している。 ○不法投棄通報件数は、前年度に比べ4件減少した。防止看板の設置や地域住民による撤去ボランティア等が広がり、地域住民の監視意識の高揚の現われと考えられる。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○市民1人あたりのごみ排出量が大きく増加し、ごみの資源化率は若干低下している。両成果指標とも見込値による評価であるが、持込量の増加に起因した成果の低下がある。 ○不法投棄通報件数は、目標どおりの成果となった。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① ゴみの減量と適正処理の推進	・24年9月から市内7事業所10店舗でレジ袋の有料化をスタートさせたことにより、マイバック持参率が有料化前の42.6%(8月末日調査。10店舗平均)から86.1%(10月1日調査。同)に倍増した。 ・固形燃料(RDF)の品質向上のため、可燃ゴミの分別方法啓発の取組を事務組合により積極的に行った。
② ゴミのリサイクルの推進	・リサイクル推進事業により、古紙・古着等の回収が継続的に行われている。 ・雲南エネルギーセンター管内の古着の回収回数を年6回から毎月1回に変更したことにより、利便性の向上が図られた。
③ し尿の適正処理	・雲南広域連合でし尿処理を適正に行っている。・下水道の整備の進展や接続促進活動により下水道接続率が向上し、し尿処理量は減少した。・し尿処理施設の老朽化に対応するため、雲南広域連合を事業主体とする汚泥共同処理施設の整備計画を策定した。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○引き続き、ゴミの減量化、再資源化、適正処理に努めていく必要がある。	○引き続き、ゴミの減量化、再資源化、適正処理に努めていく。
基本事業	① ゴミの減量と適正処理の推進	○24年度からレジ袋の有料化がスタートしたことを機に、ゴミの減量化への啓発活動を継続的に行っていく。 ○不法投棄を防止するため、パトロールを強化していく。 ○雲南市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に沿い、事業を実施していく。
	② ゴミのリサイクルの推進	○古紙・古着等の回収体制の整備を検討していく。 ○割り箸については、地域の関係団体との連携による回収方法(回収の有無も含め)の具体的な検討を行っていく。 ○制度等の周知を徹底していく。
	③ し尿の適正処理	○引き続き、し尿を適正に処理していく。 ○施設整備を行うことにより、下水道や浄化槽から発生する汚泥を含めた一体的な汚泥処理を図っていく。
	④	
	⑤	